第７５回

ト ラ ッ ク 運 送 業 界 の 景 況 感（速報）

平成２３年７月～９月期

平成２３年７～９月期の景況感は、東日本大震災により落ち込んでいた生産活動が正常化し一部に復興特需もみられ、家計や企業のマインドにやっと明るさが感じられるようになった。一方で欧州債務問題や米国の景気減速、史上最高値を更新した円高や株価の急落などの懸念材料もあった。

このような中、トラック運送業界の景況感の判断指標は▲４７で、前回（▲６６）から１９ポイントの大きな改善をみた。指標の改善は３四半期ぶり。

ただし今後に関しては持ち直しの勢いは弱い。ギリシャ債務削減問題や円高の恒常化、タイ洪水の影響など景気への不安要因は多い。１０～１２月期の業界の景況感の判断指標は▲４３で、今回から４ポイントの改善予想に留まる。

平成２３年１０月２８日

社団法人　全日本トラック協会

１．今回（平成２３年７月～９月期）の状況

⑴概況

平成２３年７～９月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は８％（前回６％）、「悪化」とした事業者は４８％（前回５８％）で、判断指標は▲４７となり、前回（▲６６）より１９ポイント改善した。

貨物別では、宅配貨物、宅配以外の特積貨物の一部指標で水準を下げたものがみられたが、一般貨物は改善した。運賃料金の水準は前回改善幅の大きかった宅配貨物はやや低下したものの総じて底堅さがある。

⑵特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が３５％、「増加」とする事業者が１４％で、判断指標は▲２９となり、前回（▲２８）から１ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が４０％、「増加」とする事業者が１４％で、判断指標は▲３３となり、前回（▲２９）から４ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が３６％、「増加」とする事業者が１３％で、判断指標は▲３０となり、前回（▲２７）から３ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が４７％、「増加」とする事業者が１８％で、判断指標は▲３３となり、前回（▲２８）から５ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が４９％、「増加」とする事業者が１７％で、判断指標は▲３６となり、前回（▲３０）から６ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が４７％、「増加」とする事業者が１５％で、判断指標は▲３６となり、前回（▲３７）から１ポイント改善した。

⑶一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が３８％、「増加」とする事業者が１８％で、判断指標は▲２７となり、前回（▲３９）から１２ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が４１％、「増加」とする事業者が１８％で、判断指標は▲３１となり、前回（▲４０）から９ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が４５％、「増加」とする事業者が１４％で、判断指標は▲４０となり、前回（▲５１）から１１ポイント改善した。

⑷運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は▲２０（前回▲１５）、宅配以外の特積貨物は▲１２（前回▲１７）、一般貨物は▲２１（前回▲２３）であった。宅配貨物はやや下げたものの、引き続き底堅さがある。

⑸実働率等

実働率は▲１８（前回▲３２）、実車率は▲１７（前回▲３０）となり、持ち直した。

雇用状況（人手の過不足）は＋１１（前回▲６）、採用状況は▲１０（前回▲１４）、所定外労働時間は▲１１（前回▲２４）で、労働関連の指標も総じて改善している。

保有車両台数は▲１２（前回▲１４）はほぼ横ばいだが、貨物の再委託（下請運送会社への

委託割合）は▲２１（前回▲２７）となり、やや持ち直した。

⑹地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、四国以外のすべての地域で改善がみられた。四国は最も水準が低い。中部、東北は前回よりも４０ポイントを超える大幅な改善であった。

事業者の規模別では、大規模事業者は相対的に水準がよい。

主な取扱い品目別では、すべての品目で改善し、特に前回水準の低かった機械関連貨物では大幅な持ち直しがみられた。

２．今後（平成２３年１０月～１２月期）の見通し

⑴概況

平成２３年１０～１２月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲４３で、今回から４ポイント改善の見込み。

⑵特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益とも水準を上げる見込み。

宅配以外の特積貨物も、輸送数量、営業収入、営業利益とも水準を上げる見込み。

⑶一般貨物

一般貨物は、特積みよりは勢いが弱いものの、輸送数量、営業収入、営業利益でやや水準を上げる見込み。

⑷運賃水準

宅配貨物、一般貨物は今回とほぼ同様の水準の見込み。宅配以外の特積貨物はわずかに水準を上げる見込み。

⑸実働率等

実働率はわずかに水準を上げる見込み。実車率は今回とほぼ同様の水準の見込み。雇用状況（人手の過不足）、採用状況、所定外労働時間も大きな変化はない見込み。

保有車両台数、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は、はわずかに水準を上げる見込み。

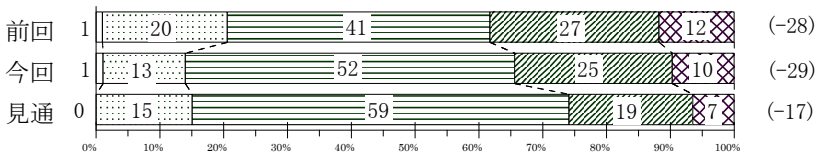
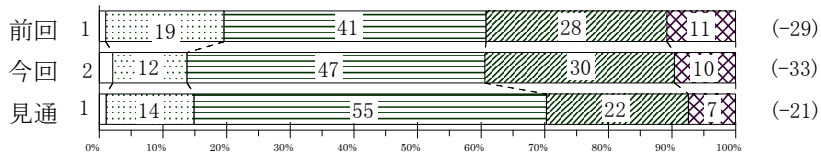
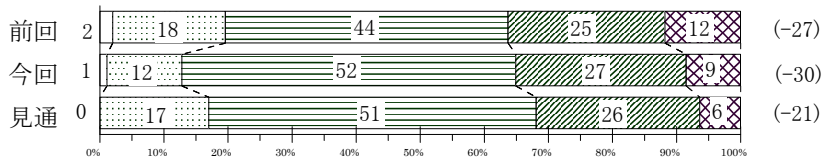
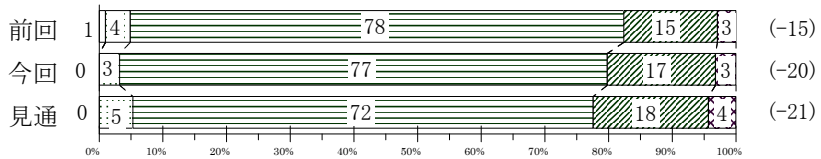
⑹地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、九州、中国では水準を下げ、厳しい見込み。それ以外の地域は水準を上げ、特に北海道、東北は相対的に水準がよい見込み

事業者の規模別では、引き続き大規模事業者は相対的に水準がよい見込み。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物、建設関連貨物はさらに水準を上げる見込み。

３．特積貨物の概況

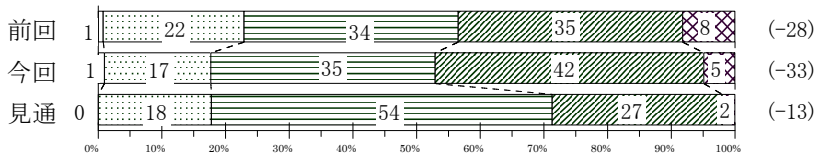
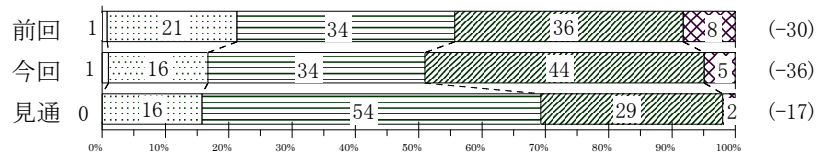
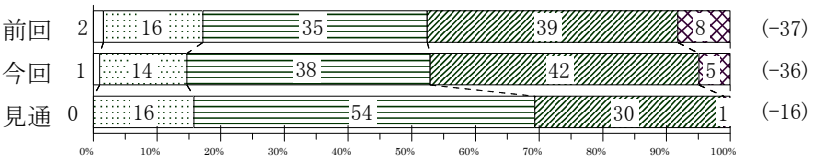
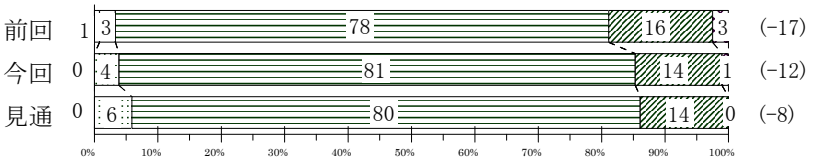
項　目		概　況
宅配貨物	輸送数量	 ・前回とほぼ同水準（１ポイント低下）だが、内容としては「増加」「減少」が減って、「横ばい」が増えた。地域別では近畿、関東、北海道の水準が相対的に低い。 ・今後は水準を上げる見込み。
	営業収入（売上高）	 ・前回から４ポイント上昇した。地域別では特に近畿の水準が低い。規模別では中規模事業者の水準が低い。 ・今後は水準を上げる見込み。
	営業利益	 ・前回より３ポイント上昇した。地域別では特に中国の水準が低い。規模別では中規模事業者の水準が低い。 ・今後はやや水準を上げる見込み。
	運賃・料金の水準	 ・前回から５ポイント悪化した。地域別では近畿の水準が相対的に低い。規模別では中規模事業者の水準が低い。 ・今後は今回とほぼ同水準の見込み。

【調査の概要】

◆平成５年３月より開始、以降３カ月ごとに実施。
今回は平成２３年９月２６日に配布。
平成２３年１０月２４日到着分までを集計。

◆回収率：６７．０％

	特　積	一　般	合　計
調査対象	２５６	６４４	９００
回収数	１０７	４９６	６０３

項　目		概　況
宅配以外の特積貨物	輸送数量	
		・前回より５ポイント悪化した。地域別では特に中国の水準が低い。規模別では特に中規模事業者の水準が低い。 ・今後は水準を上げる見込み。
	営業収入（売上高）	
		・前回より６ポイント悪化した。地域別では特に北海道、中国の水準が低い。規模別では中規模事業者、小規模事業者の水準が低い。 ・今後は水準を上げる見込み。
	営業利益	
		・前回とほぼ同様（１ポイント上昇）であった。地域別では特に東北、北海道、中国、四国は水準が低い。規模別では中規模事業者の水準が低い。 ・今後は水準を上げる見込み。
	運賃・料金の水準	
		・前回より５ポイント上昇した。下げ止まりの状況が窺える。地域別では北陸信越の水準が相対的に低い。東北は指標がプラスとなっている。 ・今後はわずかに水準を上げる見込み。

凡例

大幅に	増加・上昇・好転・人手不足	＋２点
やや	増加・上昇・好転・人手不足	＋１点
横ばい		０点
やや	減少・低下・悪化・人手過剰	－１点
大幅に	減少・低下・悪化・人手過剰	－２点

（注1）各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

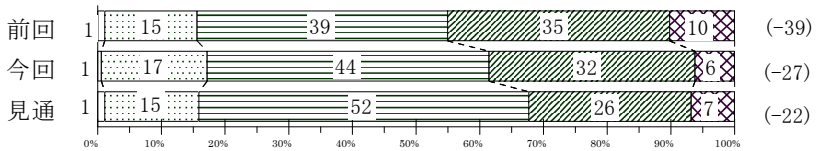
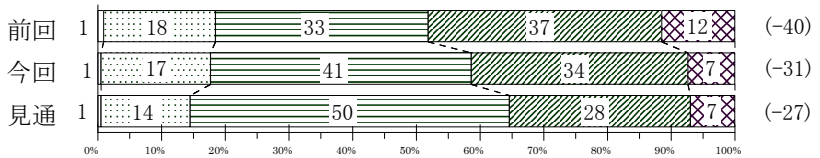
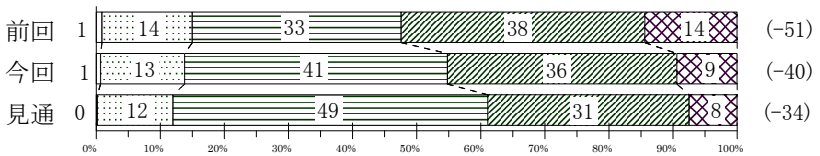
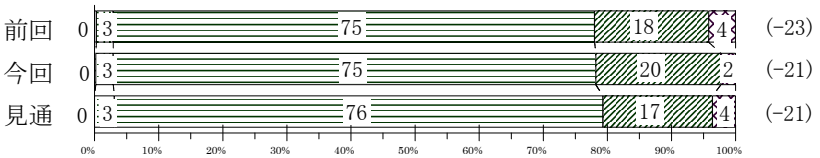
（注2）各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

（注3）グラフ右のｶｯｺ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、１事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

Ａ（設問Ａの回答者数）＝$a_1+a_2+a_3+a_4+a_5$（設問Ａの選択肢１～５の回答数の和）

指標＝｛$(+2\times a_1)+(+1\times a_2)+(0\times a_3)+(-1\times a_4)+(-2\times a_5)$｝÷Ａ×100

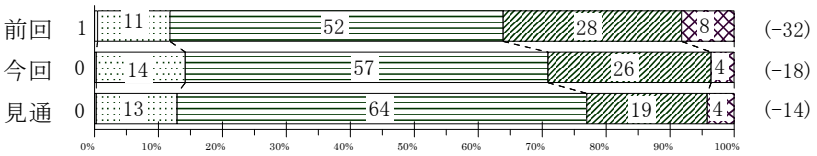
４．一般貨物の概況

項　　目	概　　況
輸送数量 （全　体）	
・前回より１２ポイント上昇した。地域別では東北の水準が相対的に低い。規模別では小規模事業者、品目別では機械関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後はやや水準を上げる見込み。	
営業収入 （売上高）	
・前回より９ポイント上昇した。地域別では東北の水準が相対的に低い。中部は相対的に良い。規模別では小規模事業者、品目別では機械関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後はわずかに水準を上げる見込み。	
営業利益	
・前回より９ポイント上昇した。地域別では中国の水準が相対的に低い。中部は相対的に良い。規模別では小規模事業者、品目別では機械関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後もやや水準を上げる見込み。	
運賃・料金 の水準	
・前回より２ポイント水準を上げた。地域別では九州、関東の水準が相対的に低い。規模別では小規模事業者は前回よりやや水準を上げたか、相対的にはまだ低い。 ・今後もほぼ同様の水準の見込み。	

５．共通の概況

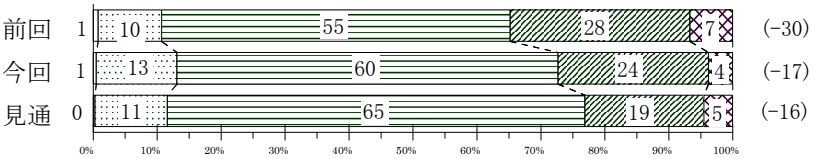
項　　目	概　　況

実　働　率



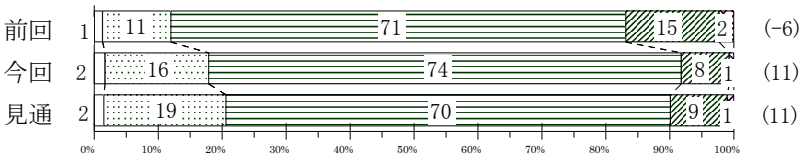
・前回より１４ポイント上昇した。地域別では中部は前回から大きく改善し、相対的によい。東北及び品目別の機械関連貨物では前回よりも大幅に改善したが相対的にはまだ低い。九州も相対的に低い。
・今後はわずかに水準を上げる見込み。

実　車　率



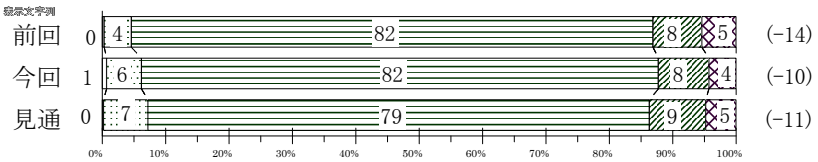
・前回より１３ポイント上昇した。地域別では中部は前回から大きく改善し相対的によい。東北及び品目別の機械関連貨物では前回よりも大きく改善したが、相対的にはまだ低い。
・今後は今回とほぼ同水準の見込み。

雇用状況（人手の過不足）



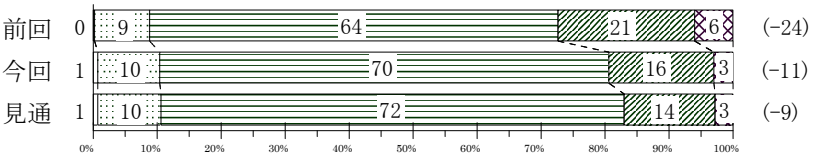
・前回より１７ポイント上昇した。地域別では北陸信越、東北、規模別では大規模事業者でやや人手不足となっている。品目別では械関連貨物は前回から大きく上昇したが、人手不足までは至っていない。
・今後も過不足感はほぼない見込み。

採用状況

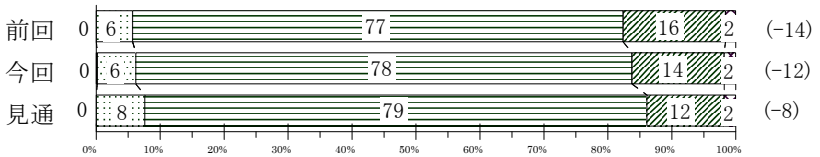
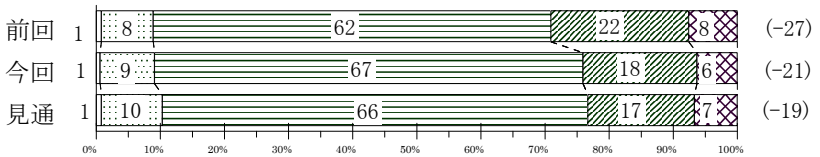
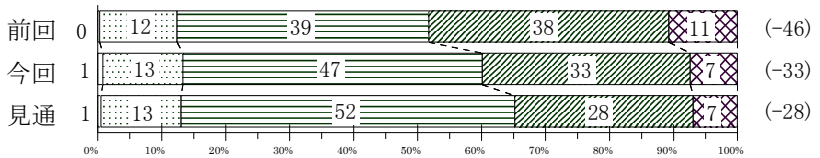
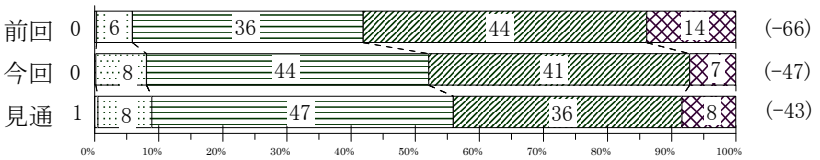


・前回より４ポイント上昇した。地域別では九州の水準が相対的に低い。
・今後は今回とほぼ同水準の見込み。

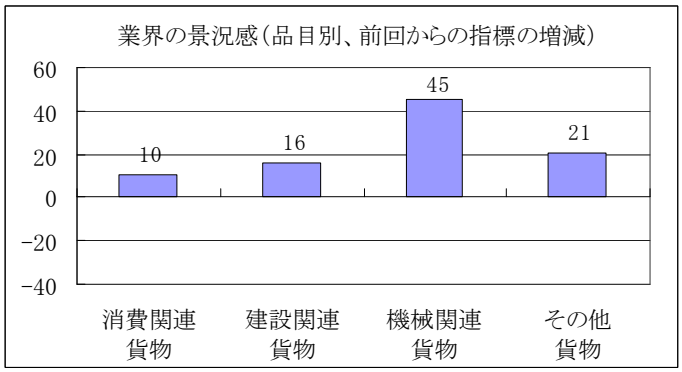
所定外労働時間



・前回より１３ポイント上昇した。地域別では東北は前回より上昇したが、相対的にはまだ低い。品目別では機械関連貨物は前回より大きく上昇した。
・今後はわずかに水準を上げる見込み。

項　　目	
保有車両台数	
・前回より２ポイント上昇した。地域別、品目別ですべて前年並みとなっている。規模別では大規模事業者は相対的に水準が低い。 ・今後もわずかに水準を上げる見込み。	
貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）	
・前回より６ポイント上昇した。地域別では中国の水準が相対的に低い。東北は前回よりも持ち直しているものの相対的にはまだ低い。 ・今後はわずかに水準を上げる見込み。	
経常損益	
・前回より１３ポイント上昇した。地域別では中国の水準が相対的に低い。東北は前回よりも大きく持ち直している。 ・今後はやや水準を上げる見込み。	
業界の景況感	
・前回より１９ポイント上昇した。地域別では特に四国の水準が低く悪化となっている。中国、九州、関東も水準が低い。中部は大きく持ち直して相対的によい。 ・今後はわずかに水準を上げる見込み。	

６．事業者特性別の特徴

事業者特性	特　　徴
①　**地域（注4）**	◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆ Ｈ２３年 ４～６月期 ／ Ｈ２３年 ７～９月期 ／ Ｈ２３年 10～12月期見通し １位　近　畿 → 中　部 → 北海道 ２位　四　国 → 東　北 → 東　北 ３位　**関　東** → 北陸信越 → 中　部 ４位　**北陸信越** → 北海道 → 北陸信越 ５位　**北海道** → 近　畿 → 四　国 ６位　**九　州** → 関　東 → 関　東 ７位　**中　部** → 九　州 → 近　畿 ８位　**東　北** → 中　国 → **中　国** ９位　**中　国** → **四　国** → **九　州** 文字の凡例 標準文字:やや悪化 **ゴシック**:悪化 **反転文字**:強い悪化
②　**規模（注5）**	・業界の景況感は、小規模、中規模事業者では前回より持ち直したものの大規模事業者と比べると相対的に水準が低い。
③　**品目（注6）**	・消費関連貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、食料工業品などが水準を上げている。今後は今回とほぼ同水準の見込み。 ・建設関連貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、金属製品が水準を大きく上げている。今後はやや水準を上げる見込み。 ・機械関連貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準を大幅に上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、輸送機械での持ち直しが著しい。今後も水準を上げる見込み。 ・その他貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、金属、化学肥料、その他の製造工業品などで前回からの持ち直しがみられた。今後は今回とほぼ同水準の見込み。 

（注4）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。
（注5）規模別分類
　　大規模事業者：101両以上　中規模事業者：21両以上100両以下　小規模事業者：20両以下
（注6）品目別分類
　　消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など
　　建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品(セメント等)など
　　機械関連貨物：電気機械(家電含む)、輸送機械(自動車等)など
　　そ の 他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7．景況感一覧表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全　体		↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→
地域	北海道	→	↘	↘	→	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	→	↘	→
	東北	↘	→	→	→	↘	→	⇩	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→
	北陸信越	↘	→	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	→	→
	関東	→	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中部	↘	→	→	↘	↘	→	↘	→	→	↘	→	→	↘	→	→
	近畿	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘	→
	中国	↘	↘	⇩	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	四国	↘	→	⇗	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘	→
	九州	↘	↘	→	↘	→	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
事業者規模	小規模事業者	⇩	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	→	→	→	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
取り扱い品目	消費関連貨物	→	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→
	建設関連貨物	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→
	機械関連貨物	⇩	→	→	↘	↘	→	⇩	↘	→	↘	→	→	↘	→	→
	その他貨物	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘

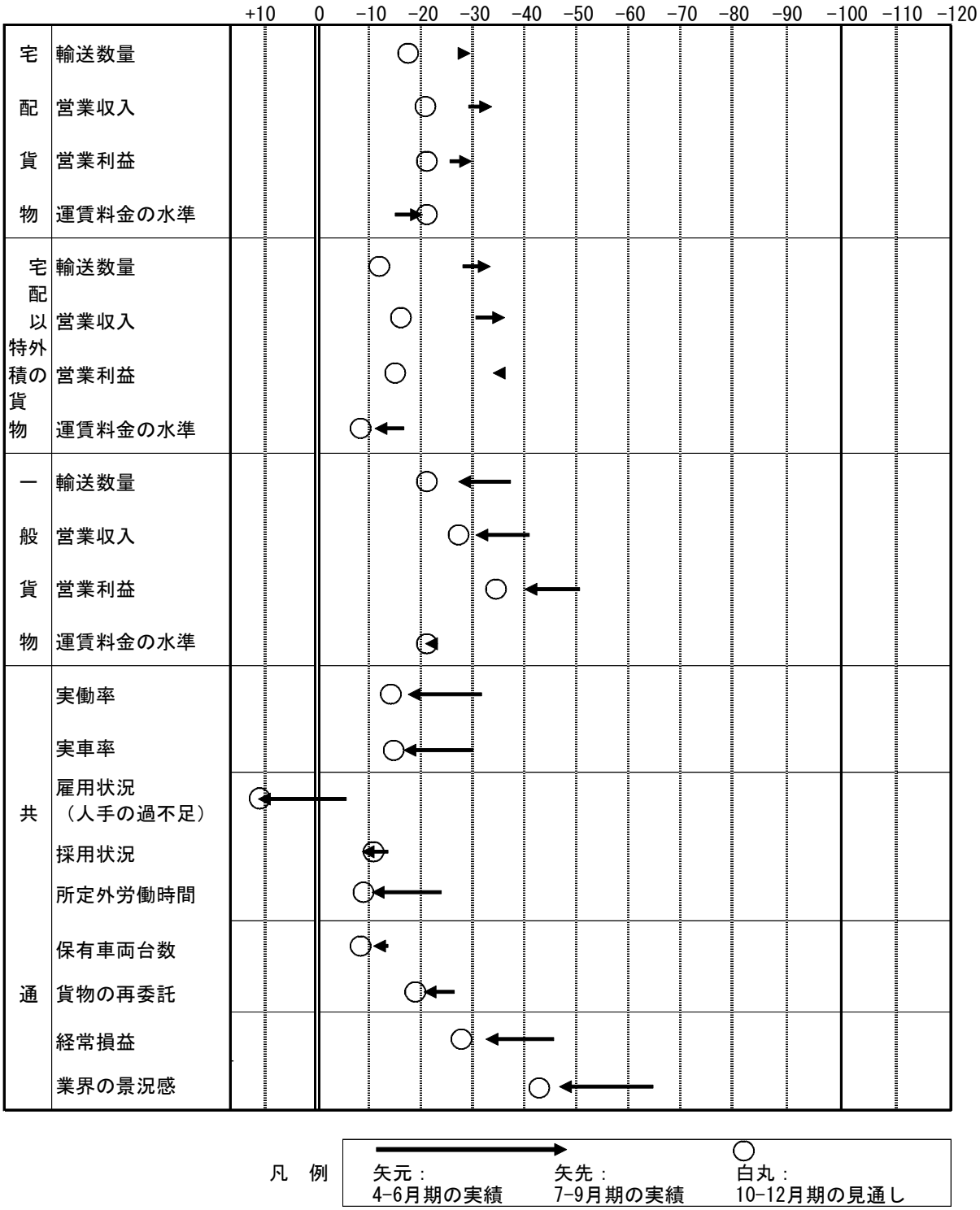
（注7）各項目は、関連する判断指標（前年同期に対する水準）から平均値を算出。
　　貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左：前回（4-6月）　中央：今回（7-9月）　右：見通し（10-12月）

・矢印と判断指標の対応

判断指標	･･･	-100	･･･	-60	･･･	-20	･･･	+20	･･･	+60	･･･	+100	･･･
矢　印	⬇		⇩		↘		→		⇗		⇧		⇧

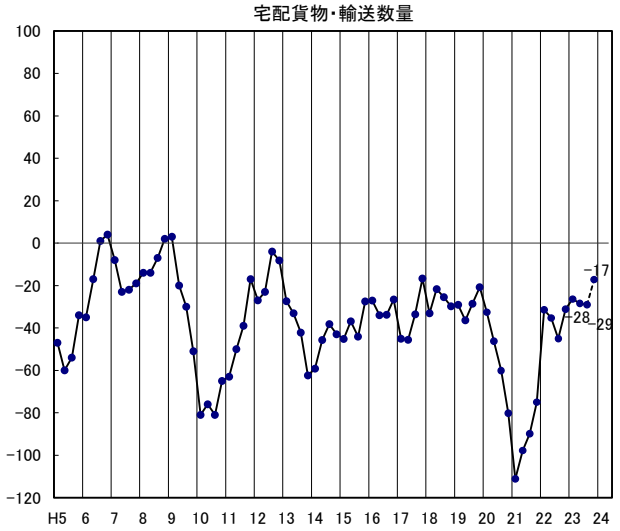
８．業況判断指標の前回調査（平成２３年４月～６月期）からの変化



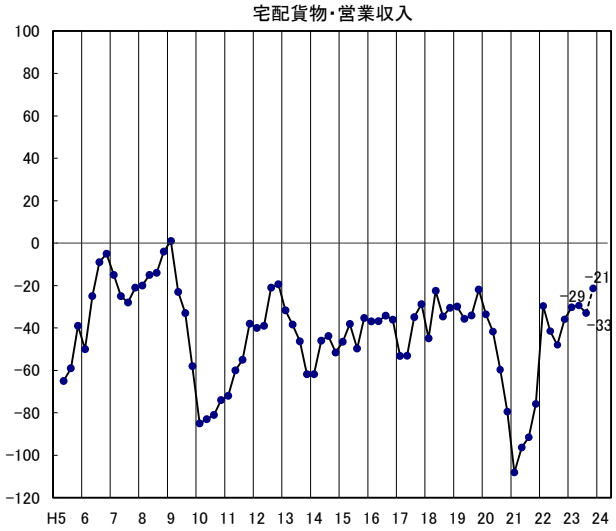
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成23年第3四半期実績、平成23年第4四半期見通し

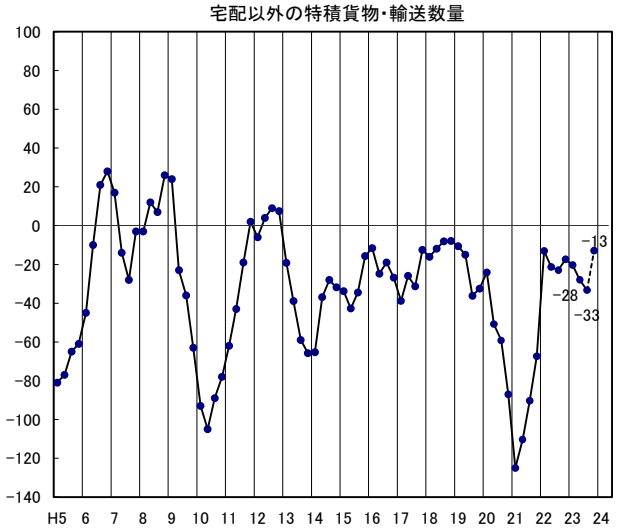
宅配貨物・輸送数量



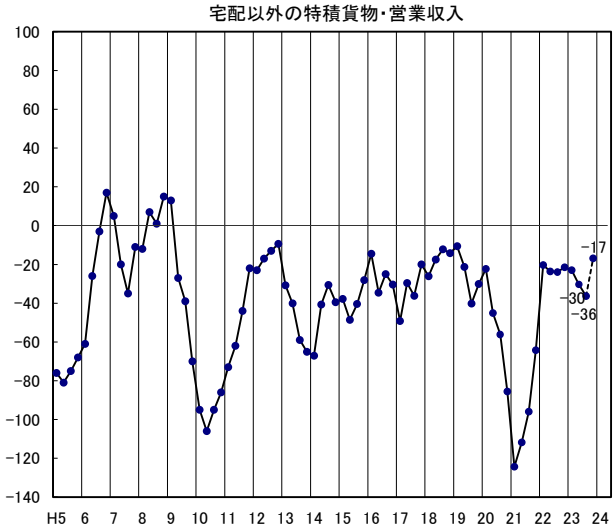
宅配貨物・営業収入



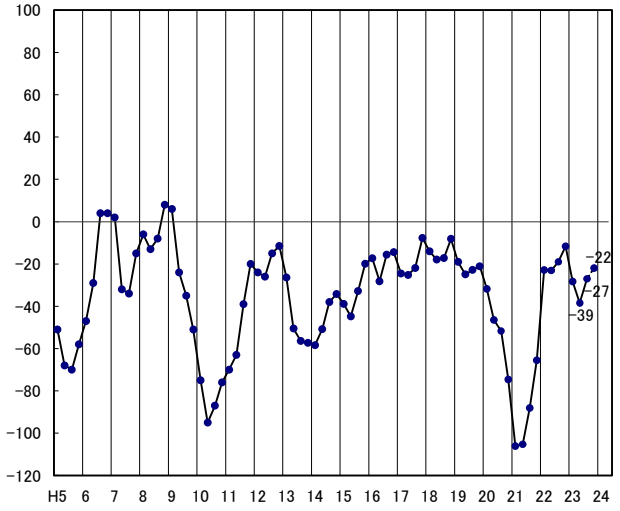
宅配以外の特積貨物・輸送数量



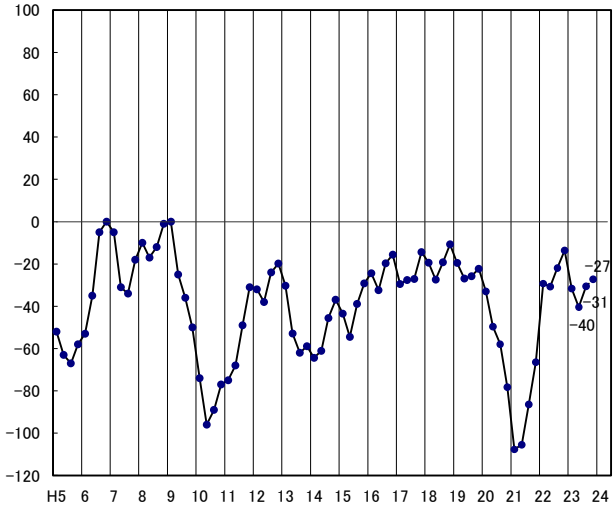
宅配以外の特積貨物・営業収入



一般貨物・輸送数量



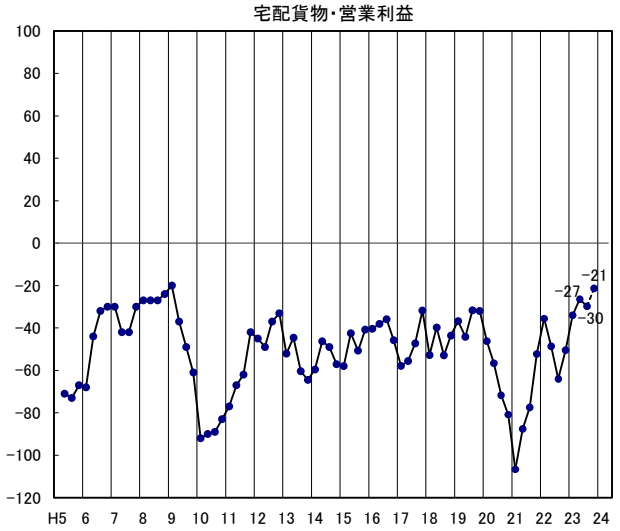
一般貨物・営業収入



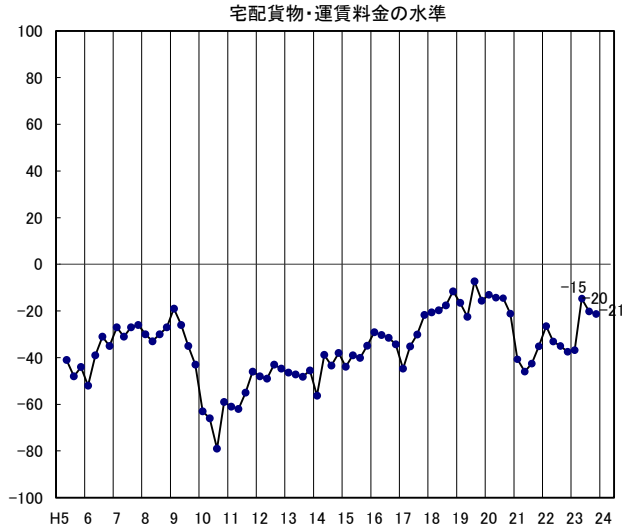
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成23年第3四半期実績、平成23年第4四半期見通し

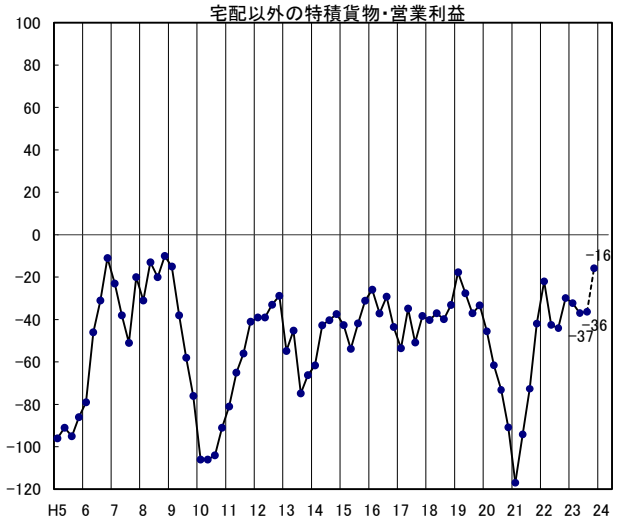
宅配貨物・営業利益



宅配貨物・運賃料金の水準

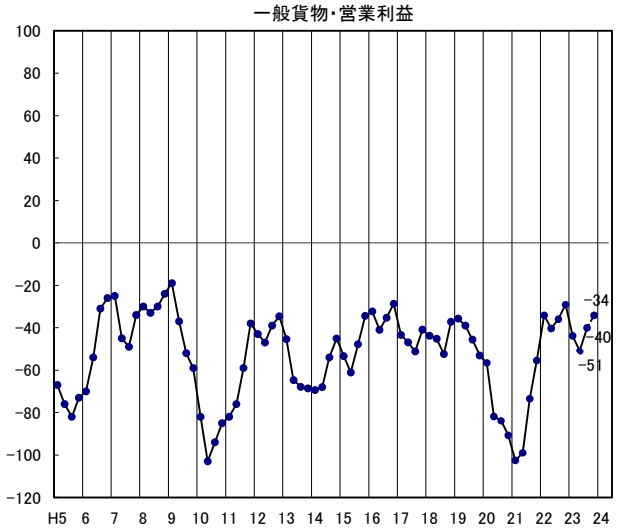


宅配以外の特積貨物・営業利益

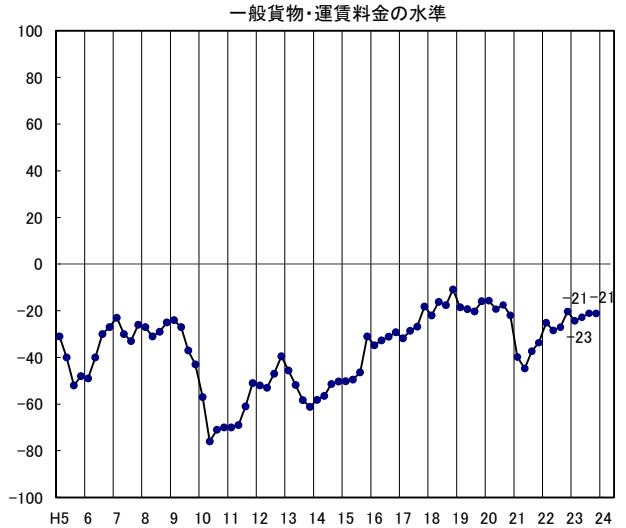


宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

一般貨物・営業利益



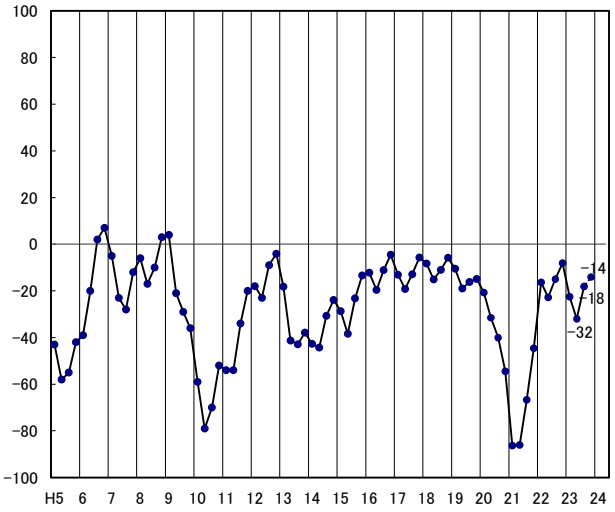
一般貨物・運賃料金の水準



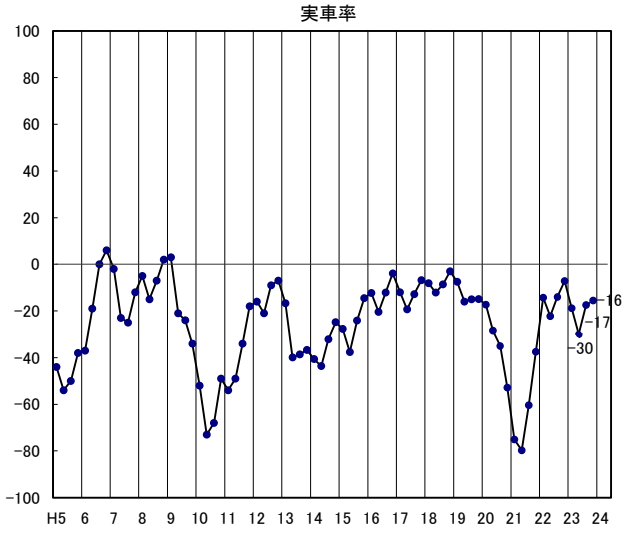
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成23年第3四半期実績、平成23年第4四半期見通し

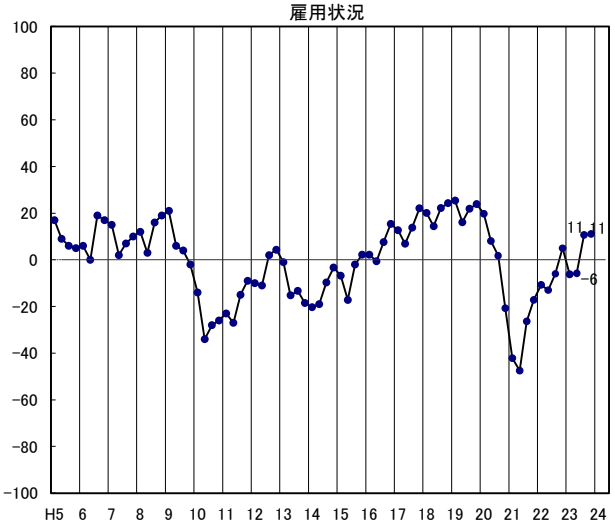
実働率



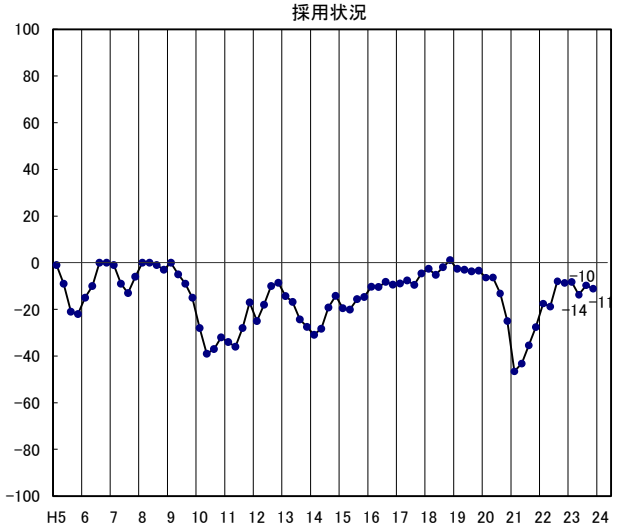
実車率



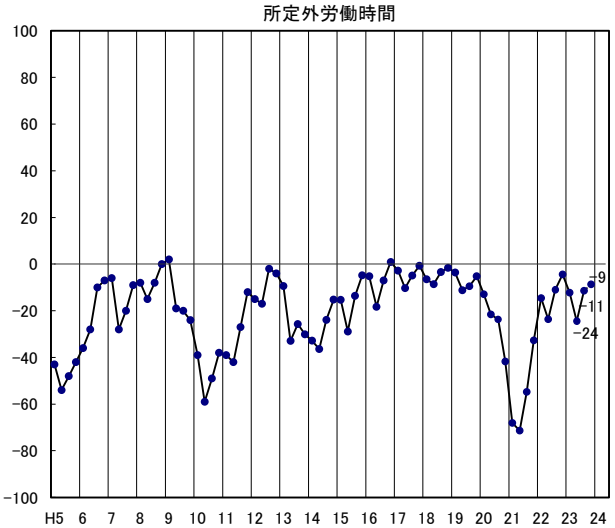
雇用状況



採用状況



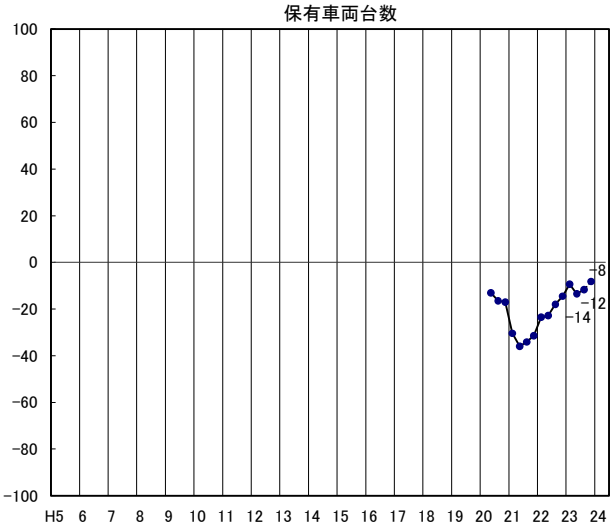
所定外労働時間



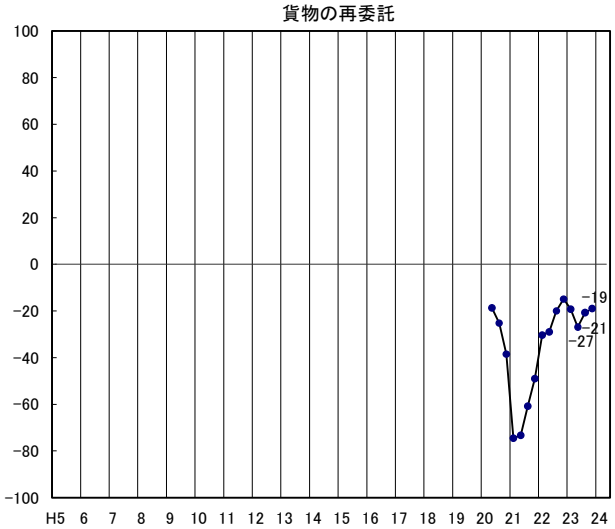
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成23年第3四半期実績、平成23年第4四半期見通し

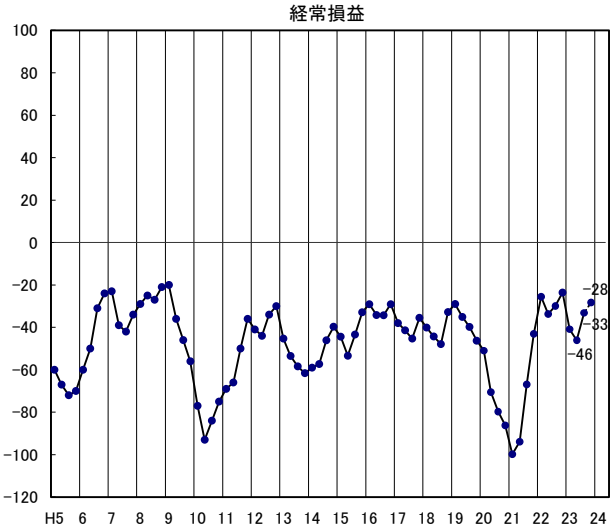
保有車両台数



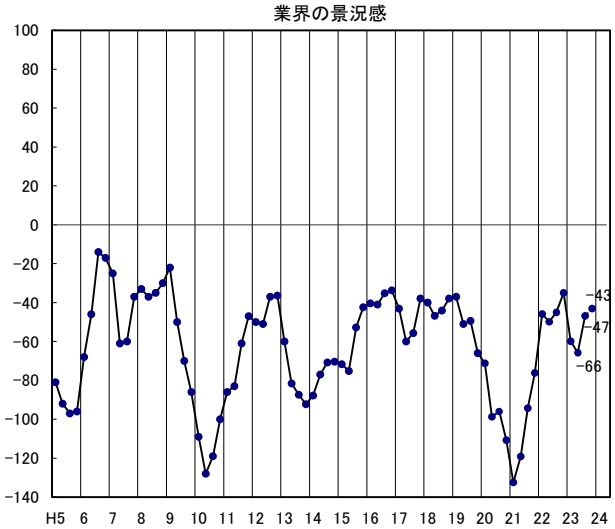
貨物の再委託



経常損益



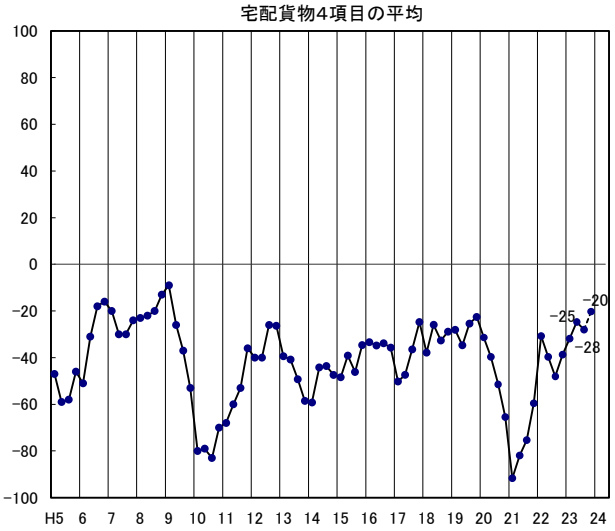
業界の景況感



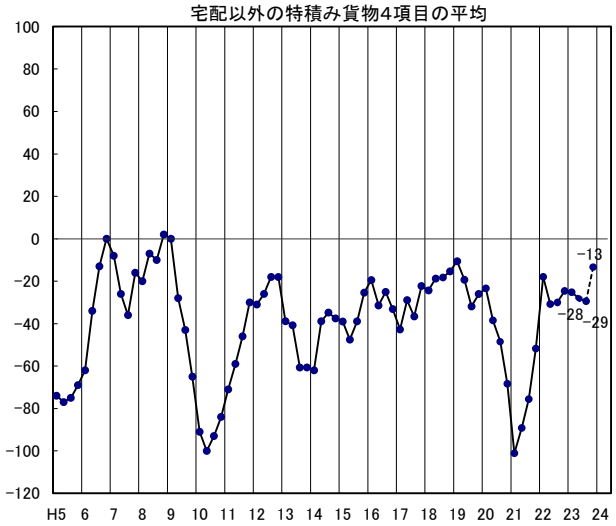
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第１四半期～平成23年第3四半期実績、平成23年第4四半期見通し

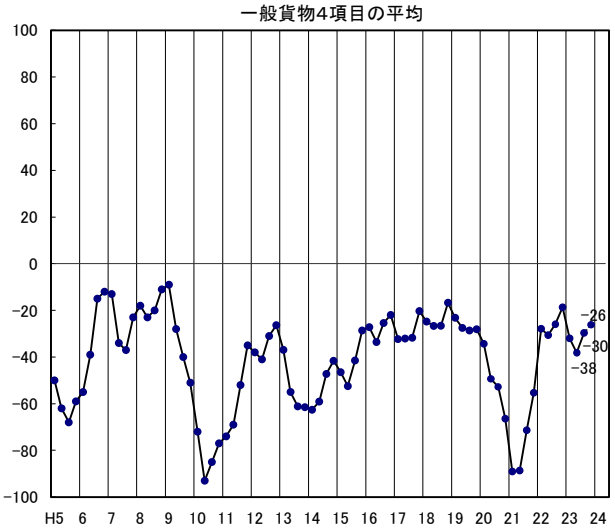
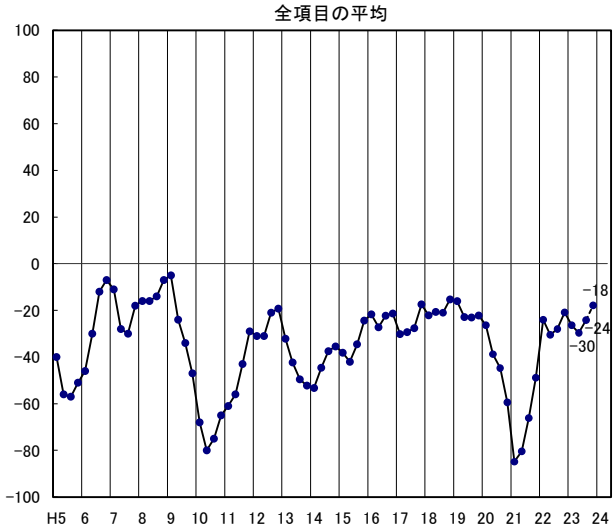
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均